

「保育者養成における 子どものうたの取り扱いについて（3）」

多保田 治 江

はじめに

子どもたちの音楽的成長を握る適切で効果的な活動・環境・援助に関して、「子どものうた」を通し継続研究して3回目の今回は、将来「子どものうた」の歌い手となる保育者養成の学生の歌唱経験や歌に対する意識にスポットを当てて考察してみたいと思う。

「幼稚園教育要領」^(註1)・「保育所保育指針」^(註2)における領域「表現」のねらいのキーワードは次である。

幼稚園教育要領

- ・豊かな感性
- ・表現する意欲
- ・表現を楽しむ
- ・イメージを豊かにする

保育所保育指針

- ・豊かな感性
- ・様々な体験
- ・主体的活動が大切
- ・創造性の芽生えを培う

表現しようとする意欲や態度がねらいとなっている。子どもにとって魅力的な表現活動となるための一つの要因は、「楽しい」と感じることであろう。筆者は、保育者を目指す学生自身が様々な楽しい体験がなければ楽しい指導計画や保育計画を立てることができないと思う。そのためまず、保育者の養成校の授業は楽しくあるべきである。しかし音楽関係では入学前の音楽学習の度合いによって学生の反応に違いが見受けられる科目もある。

中学校までは「音楽」の授業が必修科目であるが、高等学校では選択科目となり、選択しなかった場合、学生は三年間全く音楽教科に関わることなく、保育者の養成校で保育者になるために必要な音楽について学ぶことになる。本学では高等学校で「音楽」の授業を選択していた学生は全体の7割である。

高等学校によっては保育者養成校を受験するために特別なカリキュラムを設けたり、全学年に「音楽」の授業を課している学校もある。

このような学校教育の中で学生は歌に関して過去にどのような経験があるのか。どのように意識しているのかアンケート調査を実施した。

歌に関するアンケート調査について

○アンケート方法

期 間 1995年10月23日～25日

対 象 北陸学院短期大学保育科2年生 102名

1年生 105名

方 法 授業時に記入 回収

○結果と考察

1. 今までにどんな歌い方をしたことがありますか。

小学校・中学校・高等学校いずれも「校歌」を歌う機会があるので全ての学生が斉唱の経験があった。「伴奏有」・「伴奏無」ともに下降傾向ではあるが、「伴奏有」の歌い方の経験が多かった。しかしながら、大学の授業で課している「弾き歌い」とは違い歌い手が伴奏するのではなく、担当の教師の伴奏に合わせて歌うのである。また、保育者として必要なアカペラで歌う経験は極端に少なかった。

2年生 回答 102名

	小学校		中学校		高等学校		合 計	
	伴奏有	伴奏無	伴奏有	伴奏無	伴奏有	伴奏無	伴奏有	伴奏無
斉 唱	102 (100)	25 (24.5)	102 (100)	29 (28.4)	102 (100)	12 (11.8)	306 (100)	66 (21.6)
独 唱	36 (35.3)	20 (19.6)	34 (33.3)	25 (24.5)	37 (36.3)	16 (15.7)	107 (35.0)	61 (19.9)
輪 唱	79 (77.5)	41 (40.2)	60 (58.8)	17 (16.7)	22 (21.6)	14 (13.7)	161 (52.6)	72 (23.5)
交 互 唱	83 (81.4)	27 (26.5)	34 (33.3)	8 (7.8)	15 (14.7)	5 (4.9)	132 (43.1)	40 (13.1)
混声合唱			100 (98.0)	10 (9.8)	43 (42.2)	4 (3.9)	143 (46.7)	14 (13.7)
同声合唱	65 (63.7)	11 (10.8)	35 (34.3)	8 (7.8)	31 (30.4)	5 (4.9)	131 (42.8)	24 (7.8)
合 計	365 (71.6)	124 (24.3)	365 (59.6)	97 (15.8)	250 (49.0)	56 (11.0)		

「保育者養成における子どものうたの取り扱いについて（3）」

1年生 回答 105名

	小学校		中学校		高等学校		合計	
	伴奏有	伴奏無	伴奏有	伴奏無	伴奏有	伴奏無	伴奏有	伴奏無
斉唱	105 (100)	14 (13.3)	105 (100)	16 (15.2)	105 (100)	12 (11.4)	315 (100)	42 (13.3)
独唱	39 (37.1)	20 (19.0)	48 (45.7)	26 (24.8)	42 (40.0)	30 (28.6)	129 (41.0)	76 (24.1)
輪唱	68 (64.8)	37 (35.2)	34 (32.4)	6 (5.7)	18 (17.1)	10 (9.5)	120 (38.1)	53 (16.8)
交互唱	68 (64.8)	12 (11.4)	33 (31.4)	3 (2.9)	12 (11.4)	4 (3.8)	113 (35.9)	19 (6.0)
混声合唱			99 (94.3)	10 (9.5)	40 (38.1)	4 (3.8)	139 (44.1)	14 (4.4)
同声合唱	88 (83.8)	4 (3.8)	32 (30.5)	1 (1.0)	37 (35.2)	7 (6.7)	157 (49.8)	12 (3.8)
合計	368 (70.1)	87 (16.6)	351 (55.7)	62 (9.8)	254 (48.4)	67 (12.8)		

註 上段数字は人数、下段は%を表す

2. 歌うことについての好みとその理由も書いて下さい（複数回答をしてよい）。

2年生 1年生

(1) 好き……………89(87.3) 95(90.5)

・歌うことは楽しい	81(91.0)	89(93.7)
・声を出すことは気持ちよい（ストレス解消）	65(73.0)	71(74.7)
・音楽が好きである	60(67.3)	70(73.7)
・誉められたことがきっかけで好きである	3(3.4)	7(7.4)
・家族が歌好きである	28(31.5)	24(25.3)

誉められた具体例

1. 先生に誉められた
2. 家族に誉められた
3. クラブの仲間に誉められた

(2) どちらでもない……………10(9.8) 6(5.7)

(3) 嫌い……………3(2.9) 4(3.8)

・高音がでにくい	2(66.7)	4(100)
・声の出し方がわからない	1(33.3)	3(75.0)
・メロディを楽譜どおり歌えない	0	3(75.0)
・嫌いになるきっかけがある	0	1(25.0)
・家族が歌嫌いである	0	0

歌うことに関して、学生の9割が「歌うことが好き」という回答であった。好きな理由は両学年とも一番に「歌うことは楽しい」と回答した。

多保田 治 江

3. 保育科で1年次から子どものうたの弾き歌いを課しています。アカペラと弾き歌いとはどちらが歌いやすいでしょうか。その理由も書いて下さい。

	2年生	1年生	合計
(1) アカペラの方が歌いやすい……………	32(31.4)	35(33.3)	67(32.4)
・歌うことに集中できる			
・キーをチェンジすることができる			
(2) 弾き歌いの方が歌いやすい……………	27(26.5)	31(29.5)	58(28.0)
・メロディやリズムが取りやすく、歌の雰囲気も味わうことができる			
・メロディを確かめることができる			
(3) どちらも歌いやすい……………	15(14.7)	6(5.7)	21(10.1)
(4) どちらも歌いづらい……………	20(19.6)	27(25.7)	47(22.7)
(5) その他……………	8(7.8)	6(5.7)	14(6.8)
・誰かに伴奏を弾いてもらって歌う方がよい			

「アカペラの方が歌いやすい」理由として「歌うことに集中できる」と回答しているが倒置法だと「伴奏を弾くと散漫になる」と解釈することもできる。

これまで弾き歌いとピアノの関連については多く研究されている。しかし。アンケート1の調査結果からわかるように独唱で歌う経験も斉唱で歌う経験に比べ少なく、保育者養成校で必要とする歌唱能力が育てられていないことの方が問題なのである。

2年生

使用教材 必要度	1	2	3	4	5	合計
1. 必要である	0	29	21	11	1	62(60.9)
2. かなり必要である	0	15	18	4	3	40(39.2)
3. あまり必要ない	0	0	0	0	0	0
4. 必要ない	0	0	0	0	0	0

1年生

使用教材 必要度	1	2	3	4	5	合計
1. 必要である	4	26	26	10	2	68(64.8)
2. かなり必要である	2	14	17	2	1	36(34.3)
3. あまり必要ない	0	0	1	0	0	1(1.0)
4. 必要ない	0	0	0	0	0	0

使用教材の数字1～5は1バイエル程度、2ブルグミュラー程度、3ソナチネ程度、4ソナタ、5それ以上というピアノの進度を示す。但し、本学では1年終了時までにはバイエルを仕上げることになっているので、使用教材Iに該当する2年生はいない。

「保育者養成における子どものうたの取り扱いについて（3）」

保育における歌の必要度は、教育実習・保育実習を終えた2年生、授業や参観実習のみの1年生ともに高かった。

5. 保育にピアノが必要だと思いますか。

2年生

使用教材 必要度	1	2	3	4	5	合計
1. 必要である	0	23	23	9	3	58(56.9)
2. かなり必要である	0	12	6	3	1	22(21.6)
3. あまり必要ない	0	9	10	3	0	22(21.6)
4. 必要ない	0	0	0	0	0	0

1年生

使用教材 必要度	1	2	3	4	5	合計
1. 必要である	3	24	29	8	2	66(62.9)
2. かなり必要である	2	10	12	2	1	27(25.7)
3. あまり必要ない	1	6	3	2	0	12(11.4)
4. 必要ない	0	0	0	0	0	0

保育におけるピアノの必要度は、学生のピアノ進歩の高さに比例した。また、教育実習・保育実習を終えた2年生の2割が「あまり必要ない」と回答していることは興味深い。

6. 一番好きな子どものうたの曲名とその理由を書いて下さい。

好きな子どものうた 総数70曲

	理由		理由
1. さんぽ	(19) 1・2・3	ドロップスのうた	(1) 1
2. あわてんぼうのサンタクロース	(14) 1・2・3	双子のオオカミ大冒険	(1) 8
3. おもいでアルバム	(12) 6・9	はたけのポルカ	(1) 1
4. 大きな古時計	(10) 6・8・9	うみでおよぐ	(1) 4
あめふりくまのこ	(10) 6・9・10	およげたいやきくん	(1) 7
6. 森の熊さん	(8) 1・6・8	幸せなら手をたたこう	(1) 1
7. 犬のおまわりさん	(7) 1・6・7	雨	(1) 6・9・10
8. おもちゃのチャチャチャ	(6) 2・3・5・6	おなかのとけい	(1) 8
ありさんのおはなし	(6) 8	白熊のジェンカ	(1) 1
小さな世界	(6) 1・6・8	手のひらを太陽に	(1) 1・2
11. きのこ	(5) 1・2	かたつむり	(1) 10
12. バスごっこ	(4) 1・2	五匹のかえる	(1) 1
どんぐりころころ	(4) 6	あらどこだ	(1) 1・8
おぼけなんてないさ	(4) 8	おはようクレヨン	(1) 8
15. チューリップ	(3) 6	すてきなパパ	(1) 1
おつかいありさん	(3) 6・8	まっかな秋	(1) 8
空でえんそくしてみたい	(3) 1・7	世界中の子どもたちは	(1) 1
アイアイ	(3) 1	七つの子	(1) 6・7
ふしぎなポケット	(3) 5・11	みどりのマーチ	(1) 1
とんぼのめがね	(3) 1	蛙の合唱	(1) 1

多保田 治 江

21. ありがとうさようなら	(2) 8	コンピューターおばあちゃん	(1) 8
うさぎのはらのクリスマス	(2) 8・10	クラリネットこわしちゃった	(1) 1・2・6
線路はつづくよどこまでも	(2) 3	もみじ	(1) 8
赤とんぼ	(2) 4・9	ゆりかごのうた	(1) 8・10
大きな木	(2) 3	とんでったバナナ	(1) 1・6・8
かわいいかくれんぼ	(2) 6	南の島のハメハメハ大王	(1) 1・2
たのしいね	(2) 1	トムピリピ	(1) 6
とけいのうた	(2) 4	あさいちばんはやいのは	(1) 6
ドレミのうた	(2) 6	なみとかいがら	(1) 6・8
ピクニック	(2) 1・2・3	ぞうさん	(1) 6
はをみがましよう	(2) 1	ホホホ	(1) 1・2
虫歯の子どもの誕生日	(2) 8	一ねんせいになったら	(1) 6・9
33. サッチャン	(1) 6・9・10	ゆきのペンキやさん	(1) 8
山のワルツ	(1) 9	こいのぼり	(1) 7
お花がわらった	(1) 9	こりすのふうせんりょう	(1) 8・9

好きな理由と回答数

1. 楽しい28 2. リズミカルである10 3. 元気がでる6 4. 気持ちが安定する3 5. 夢がある2
6. 幼い時から好きである22 7. 母親が歌ってくれた歌である5 8. 歌詞がよい21
9. メロディがよい11 10. 歌いやすい6 11. 伴奏がよい1

学生の選んだ一番好きな子どものうたは「さんぼ」であった。選曲理由は「歌で得られるムード」、「歌の歌詞や音楽的特徴」、「歌にまつわる思い出」の3つに分けられる。その中で「楽しい」が一番多かった。

7. 一番好きなあそびうたの曲名とその理由を書いて下さい。

好きなあそびうた		総数35曲	
1. 山小屋いっけん	(29) 1・6・10	18. ころころたまご	(2) 2・8
2. くいしんぼうのゴリラ	(21) 1・8・12	茶つぼ	(2) 1・10
3. アルプス一万尺	(20) 1・2・6	あぶくたった	(2) 6
4. これくらいのとんぼ	(19) 1・6・8	ずいずいずつころばし	(2) 1
5. 小さな庭	(17) 1・8	ねこのこ	(2) 1
6. ひげじいさん	(9) 1・12	23. かにさんどーこ	(1) 14
7. アブラハムの子	(8) 1・6	あくしゅでこんにちは	(1) 1
一匹ののねずみが	(8) 8・10・12	八百屋のお店	(1) 12
9. 大きなくりの木の下で	(6) 7・13	なべなべそこぬけ	(1) 1・6
はないちもんめ	(6) 6	きつつきおじさん	(1) 1
11. みかんの花咲く丘	(5) 6	蚊のカノン	(1) 1
12. てんぐのはな	(4) 8	いっぽんばし	(1) 14
むすんでひらいて	(4) 6・10	いとまきのうた	(1) 6
14. カレーライス	(3) 8	パンダうさぎコアラ	(1) 1
おはなしゆびさん	(3) 1	5つのメロンパン	(1) 1
おてらのおじょうさん	(3) 1	おせんべやけたかな	(1) 6
げんこつやまのたぬきさん	(3) 1・7	鬼のパンツ	(1) 1

好きな理由と回答数

1. 楽しい20 2. リズミカルである2 3. 元気がでる0 4. 気持ちが安定する0
5. 夢がある0 6. 幼い時から好きである11 7. 母親が歌ってくれた歌である2
8. 歌詞がよい7 9. メロディがよい0 10. 歌いやすい4 11. 伴奏がよい0
12. かえうたができる4 13. 振りが好きである1 14. 子どもが喜ぶ2

「保育者養成における子どものうたの取り扱いについて(3)」

学生の選んだ一番好きなあそびうたは「山小屋いっけん」であった。1～5位のあそびうたに集中したため、曲数は子どものうたの半分の35曲であった。選曲理由は「楽しい」が一番多かった。

8. 授業以外、生活の中で何か歌を歌う時がありますか。

	2年		1年		2年		1年
場所 1. カラオケ	167	76	91	5. どこでも	14	5	9
2. 自宅(含風呂の中)	89	33	56	6. 大学の休み時間	9	6	3
3. 車の中	37	13	24	7. クラブ活動	8	5	3
4. 道 路	23	6	17	8. 自転車に乗りながら	4	0	4

カラオケと回答した学生が全体の8割あり予想外に多かった。また、生活の中で何かしら歌を歌う機会を持っていることがわかった。

2年生にはその他に次のアンケートを付加した。

・教育実習、施設実習、保育所実習期間、毎日歌っていた歌がありますか。

幼 稚 園		施 設		保 育 所	
1. さようならのうた	25	1. ごはんだごはんだ	5	1. おはようのうた	18
2. おはようのうた	21	2. せんせいとおともだち	2	2. とんぼのめがね	13
3. せんせいとおともだち	11	おふねはぎっちらこ	2	3. さようならのうた	9
4. しょくぜんのおいのり	10			4. おべんとうのうた	8
5. おべんとう	6			5. うんどうかいのうた	3
6. さんぽ	5				
7. このはなのように	4				
バスごっこ	4				
9. おいのりしましょう	3				
朝ですおはようございます	3				

本学では教育実習期間が3つの実習の中で一番長期であるので、曲数が多いのも幼稚園であった。「生活・遊び」に関する歌やキリスト教保育の幼稚園で実習しているため「さんびか」が歌われていた。

多保田 治 江

・教育実習、施設実習、保育者所実習期間に指導した歌の満足度について答えて下さい。

①指導に満足である……………69 (57曲) 67.6%

1. バスごっこ	7	17	1
2. 五匹のかえる	6	かわいいかくれんぼ	とんだったバナナ
3. とんぼのめがね	5	おもいでアルバム	ちいさいおてて
ママとゴーゴー	5	5つのメロンパン	チュンチュンワールド
5. 大きい木	4	はしるのだいすき	どんぐりころころ
さんぼ	4	てんぐのはな	ひげじいさん
こいのぼり	4	ムーンライト伝説	大きな古時計
8. おはなしゆびさん	2	とけいのうた	ながぐつマーチ
みどりのマーチ	2	はをみがきましょう	アイアイ
たんぼぼさん	2	お花がわらった	お花のオルゴール
せんせいとおともだち	2	大きなくりの木の下で	ちいさなはなが
世界中の子どもたちが	2	おべんとうのうた	おはようのうた
この花のように	2	かたつむり	すてきなパパ
おなかのとけい	2	うんどうかい	かもめの水兵さん
小鳥の歌	2	赤とんぼ	パンダうさぎコアラ
さようならのうた	2	すうじのうた	ぼくのミックスジュース
		犬のおまわりさん	けむしが3匹

理由

- ・楽しく子どもたちと歌うことができた
- ・子どもが興味を持って歌うことができた

②どちらでもない……………14 (13曲) 13.7%

1. ○ぼくのミックスジュース	3
2. _____	1
○バスごっこ	○こいのぼり
○ママとゴーゴー	○大きな古時計
○こいのぼり	空でえんそくしてみたい
○おなかのとけい	おもちゃのチャチャチャ
○とけいのうた	ピクニック
○かたつむり	動物園に行こう

曲名の前の○印は①、②両方に上げられたうた
 曲名の前の◎印は①、②、③いずれにも上げられたうた
 曲名の前の△印は②、③両方に上げられたうた

指導に満足した学生は7割近くであった。その理由は、指導時間における子どもと歌との関係であった。

一方、心残りがある学生も過半数あった。その理由は、学生と歌との関係が多く次に指導時間の配分や子どもと歌との関係であった。

バスごっこ・とけいのうた・おなかのとけい・かたつむり・ママとゴーゴー・ぼくのミックスジュースの7曲が①指導に満足である、②どちらでもない、③心残りがあるのいずれにも上

「保育者養成における子どものうたの取り扱いについて（3）」

③心残りがある……55 (43曲) 53.9%

1. あめふりくまのこ	4	12	1
2. ◎バスごっこ	2	◎とけいのうた	○大きい木
○ニャニョの天気予報	2	◎おなかのとけい	○ヘイ！タンプリン
○はしるのだいすき	2	◎かたつむり	○小鳥の歌
○みどりのマーチ	2	◎ママとゴーゴー	おべんとうのうた
○かわいいかくれんぼ	2	◎ぼくのミックスジュース	はるがきた
△空でえんそくしてみたい	2	○さようならのうた	ひとまねおうむ
おかあさん	2	○おはよのうた	カレーライスのうた
山のワルツ	2	○南の島のハメハメハ大王	アイスクリームのうた
コッポコッポながぐつさん	2	○五匹のかえる	パフ
おばけなんてないさ	2	○さんぼ	ママごめんないさ
		○ながぐつマーチ	こりすのふうせんりょこう
		○世界中の子どもたちが	きのこ
		○とんぼのめがね	いのりのはなかご
		宇宙ロケット	ひよこ
		せっけんさん	きらきらぼし
		森の熊さん	もんしろちょう

理由

- ・歌詞を忘れた
- ・伴奏が思うように弾けなかった
- ・誘導時間が少なかった
- ・子どもが興味を示さなかった

げられている。子どもの歌に対する受け止め方や指導者の援助法によって満足度が異なるように思われる。

最後に、表現活動は音楽に関する諸活動ばかりでなく様々な表現法がある。担当科目によって学生を一方向から見る危険性があるので、毎年次のアンケートを実施している。

○表現活動の中で得意なものがありますか（複数回答してよい）。

ある	／ 2年生99名	ない	／ 2年生 3名
	＼ 1年生50名		＼ 1年生55名

「表現活動に得意なものがない」と回答した1年生が過半数を占めた。1年次は気づかないが、教育実習や保育実習における体験が改めて自分に気づくチャンスとなったり、自分をアピールすることに慣れてくるので2年生は得意な表現活動を回答することが可能となるように思われる。

多保田 治 江

表 現 活 動	2年	1年	計
1 舞 踊	40	13	53
2 歌	30	18	48
3 絵画工作	15	20	35
4 劇	20	11	31
5 管 楽 器 フルート、ホルン クラリネット トランペット	17	2	19
6 書 道	3	14	17
7 ピアノ ハンドベル	15 3	0 12	15 15
9 朗読・アナウンス お 話	11	3	14
10 バトントワリング	10	0	10
11 リコーダー	6	1	7
12 パーカッション 電子オルガン 俳句・詩・作文	4 3 3	0 1 1	4 4 4
15 アコーディオン 版画・木彫り	3 3	0 0	3 3
17 鍵盤ハーモニカ ハーモニカ ギター	2 2	0 0	2 2
19 手 話	1	0	1

三歳未満児のあそびうたについて

1993年に実施した子どものうたに関する保育現場からのアンケート^(註3)回答結果に基づく三歳以上児クラスは「ほとんど伴奏をつけてうたを指導する」割合が多かったが、三歳未満児クラスは「範唱による聴唱法で指導する」割合が多かった。特にあそびうたはオリジナルの楽譜に伴奏が付いていても「あそび」が伴うため範唱で指導されている。そこで、保母のうた声への比重が大きい。

今回、学生が夏休みの課題で収集した三歳未満児対象のあそびうた100曲の種類・調・拍子・小節数・リズムパターン・音域・開始音・音程関係を分析することによって、特徴を把み保育者養成における声楽指導に役立てることがねらいである。

○うたの種類

三歳未満児対象のあそびうたは次の鑽種類に分けられる。

調性のあるうた……………82

長 調	短 調	曲 数
C dur	a moll	40
D dur		15
Es dur		1
F dur		22
G dur		1
A dur		1
B dur		1
		計

わらべうた……………15

(わらべうた風に作曲されたものを含む)

	曲 数
2 音 構 成	7
3 音 構 成	6
4 音 構 成	2

となえうた…………… 3

調性のあるうた82曲の中で、Cdur が最も多く40曲、「おむつかえのうた」が唯一短調の曲であった。

○拍子

		曲 数	
2 拍子系	4分の4拍子	58	99
	4分の2拍子	38	
	2分の2拍子	2	
	8分の6拍子	1	
3 拍子系	4分の3拍子	1	1
計		100	

圧倒的に2拍子系の曲が多い。3拍子系のあそびうたは「はたけに行こう」1曲のみであった。

多保田 治 江

○小節数

















1コーラス2小節で作曲された「いちはちとまった」から、その10倍である20小節かけて表現する「からすのおにぎり」まであり、4の倍数で作られた曲が75曲（75%）と多かった。

小節数	曲数	小節数	曲数
2	1	10	5
4	17	11	1
5	1	12	8
6	7	13	1
7	2	14	4
8	43	16	6
9	3	20	1
計			100













○リズムパターン

パターン	曲数	パターン	曲数
2	14	7	1
3	27	8	6
4	20	9	2
5	20	11	1
6	9		
計			100

4分の4拍子で多いリズムパターン（58曲 91パターン）

- ①  25 , ②  22 , ③  10 ,
 ④  ,  ,  ,  8
 ⑧  ,  ,  6
 ⑪  ,  ,  5
 ⑭  ,  ,  4

4分の2拍子で多いリズムパターン（38曲 43パターン）

- ①  30 ②  19 ③  13 ④  12
 ⑤  10 ⑥  9 ⑦  6 ⑧  5 ⑨  4
 ⑩  ,  ,  3

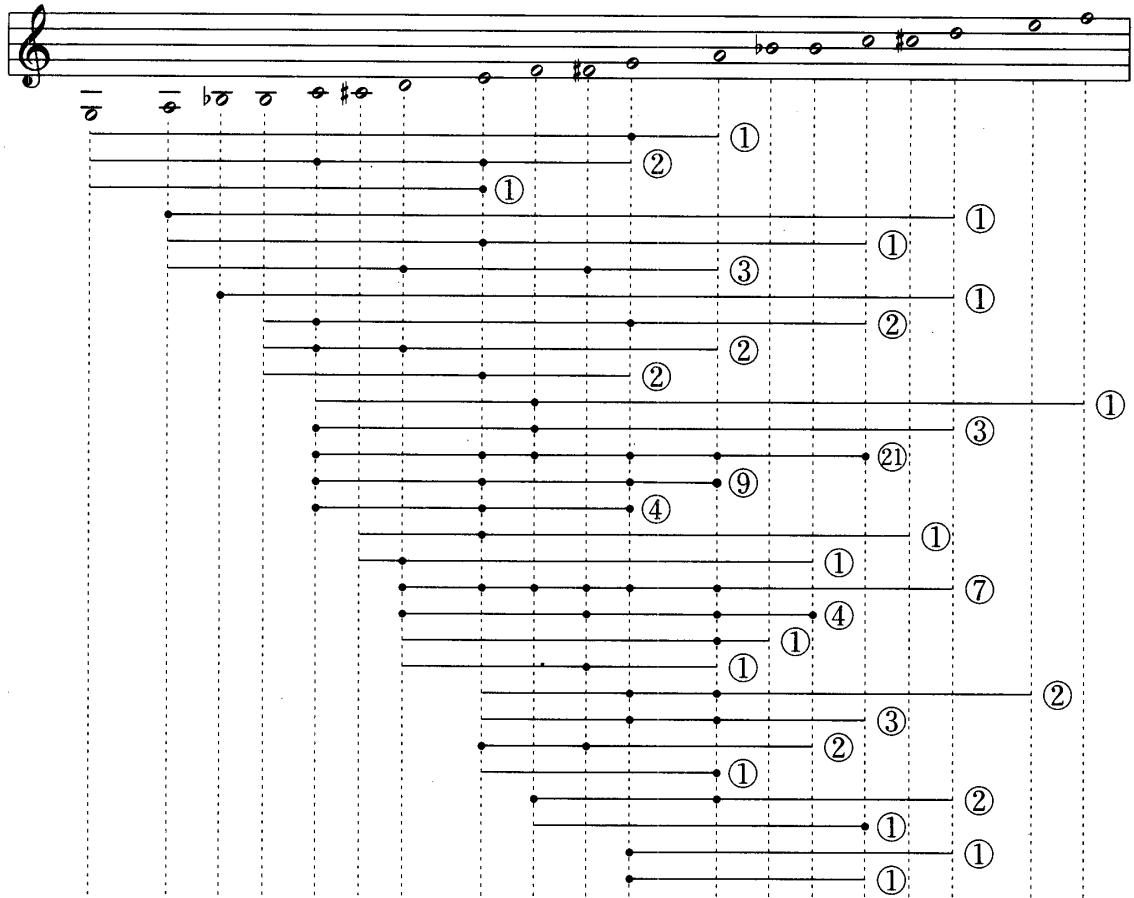
「保育者養成における子どものうたの取り扱いについて (3)」

一曲に用いられているリズムパターンの数が少ないと記憶もしやすく「うたいやすさ」の1つの条件になると思われるが、2～5のリズムパターンで作曲されたあそびうたは100曲中90曲であった。

○音域と開始音

最も音域が広いあそびうたは完全11度の隔りがある「ねずみのちゅう公」(c¹~f²)・「みぎて

★調のあるうたの音域と開始音



開始音	1	1	8	7	15	15	5	17	9	1	3	計82
-----	---	---	---	---	----	----	---	----	---	---	---	-----

★わらべうたの構成音と開始音

2音												⑦
3音												⑥
4音												②

開始音				1	3	11	計15					
計	1	1	8	7	16	15	5	20	20	1	3	計97

多保田 治 江

とひだりて」(a~d²)の2曲であった。一方音域が狭いあそびうたは2音構成のわらべうた或いはわらべうた風に作曲されたうたで「あしたてんきになーれ」・「いちほちとまった」・「いまないた」・「おせんべやけたかな」・「草ぼうぼう」・「この子はどこの子」・「10円入れてくださいな」の7曲であった。

メロディはg¹(20曲)・a¹(20曲)を開始音とするあそびうたが多く、次いでe¹(16曲)、f¹(15曲)の順でこれら4音の合計は全体の7割を占めた。開始音の最高音はc²で「おむすびころりん」・「にぎにぎぼんぼんぼん」・「ゴリラのうた」の3曲あった。最低音はaで「みぎてとひだりて」であった。

○音程関係

分析の方法は三歳未満児を対象としたあそびうた100曲のメロディ各2音間の音程において完全1度の関係を0とし、短2度の関係を0.5という数値で隔りを示した。

0(完全1度)が最も多く使用され、次いで1(長2度)が続き、この2音程で全体の69.9%を占めた。また、5.5(長7度)の音程は使用されていなかった。

次に、メロディを構成する3音間の音程関係を調べ集計を行った。これはメロディの流れの特徴を把握するためである。流れの上昇はプラス、下降はマイナスとして分析した。

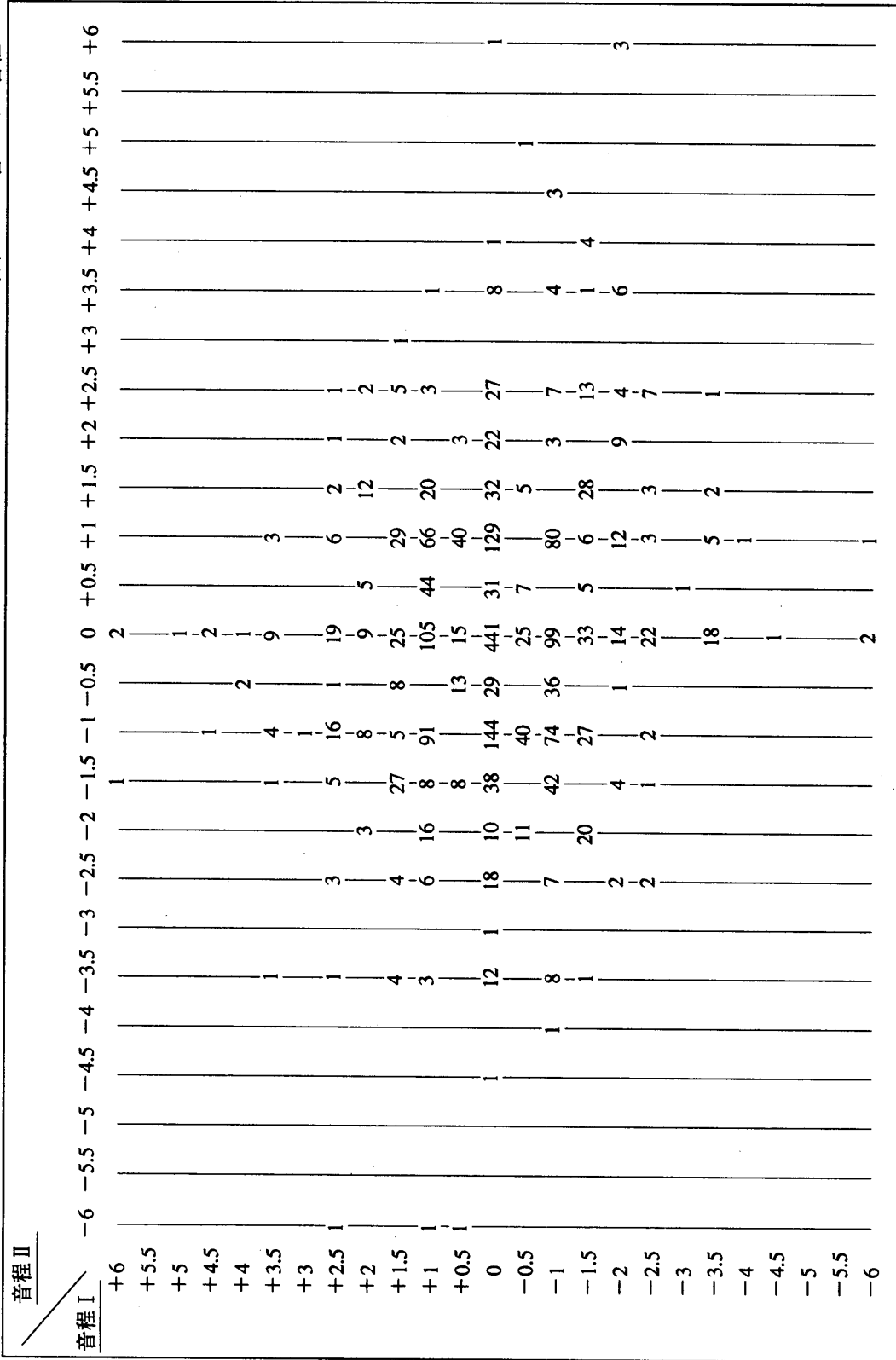
3音間の音程関係はメロディの方向によって9パターンに分類される。その中で3音が同音である⑤のパターンが一番多く使用され、反対に上昇して同音に進む②のパターンが少かった。

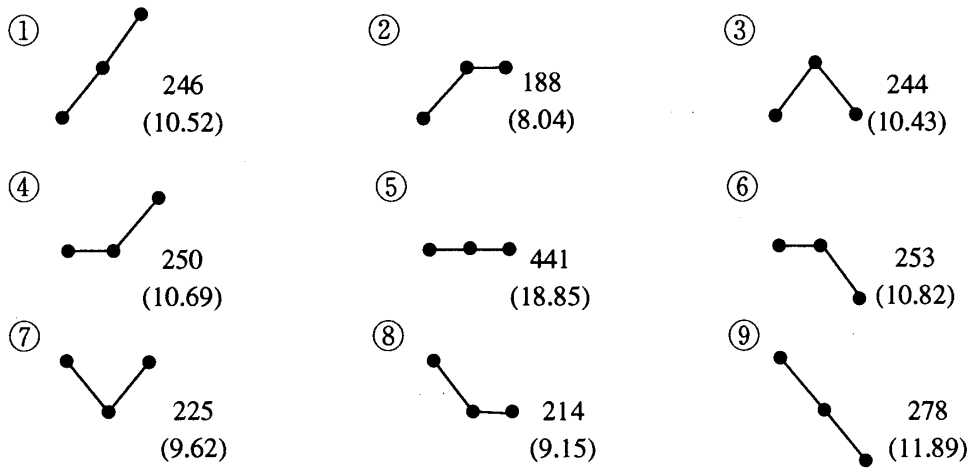
音程	使用頻度	使用率
0	1027	38.02
0.5	210	7.77
1	861	31.88
1.5	298	11.03
2	97	3.59
2.5	139	5.15
3	2	0.07
3.5	48	1.78
4	6	0.22
4.5	7	0.26
5	1	0.04
5.5	0	0.00
6	5	0.19
総数	2701	100.00

「保育者養成における子どものうたの取り扱いについて(3)」

3 音間の音程関係のクロス集計

音程 I 3 音の1-2の音程
音程 II 3 音の2-3の音程





また、音程の隔りが広いあそびうたは次の15曲であった。

広い音程を持つ3歳未満児対象のあそびうた

+6	,	0	[指の歌]	}	$d^1-d^2-d^1$
			[ゆびのさんぽ]		
+6	,	-1.5	[せんせいとおともだち]		$c^1-c^2-a^1$
+5	,	1.5	[せんせいとおともだち]		$c^1-c^2-a^1$
+5	,	0	[春風つるん]		$h-a^1-a^1$
+4.5	,	0	[みぎてとひだりて]		$a-fis^1-fis^1$
			[元気モリモリ]		$c^1-a^1-a^1$
+4	,	0	[みぎてとひだりて]		$h-g^1-g^1$
+4	,	-0.5	[じまんくらべ2回]		$e^1-c^2-h^1$
+4.5	,	-1	[ぼうしをかぶろう]		$c^1-a^1-g^1$
+2.5	,	-6	[かしわもちギョッギョツ]		$g^1-c^2-c^1$
+1	,	-6	[元気モリモリ]		$b^1-c^2-c^1$
+0.5	,	-6	[ペロペロアイス]		$h^1-c^2-c^1$
0	,	+4	[おててをたたきましょ]		$h-h-g^1$
0	,	-4.5	[おむすびすつとんとん]		$cis^2-cis^2-e^1$
0	,	+6	[ねずみのちゅう公]		$f^1-f^1-f^2$
-0.5	,	+5	[春風つるん]		c^1-h-a^1
-1	,	-4	[春風つるん]		g^1-f^1-a
-1	,	+4.5	[かしわもちギョッギョツ2回]	}	$d^1-c^1-a^1$
			[ぼうしをかぶろう]		
			[元気モリモリ]		
-1.5	,	+4	[じまんくらべ3回]	}	$g^1-e^1-c^2$
			[おててをたたきましょ]		
-2	,	+6	[せんせいとおともだち]		$e^1-c^1-c^2$
			[指の歌]	}	$fis^1-d^1-d^2$
			[ゆびのさんぽ]		

「保育者養成における子どものうたの取り扱いについて（3）」

-4.5	,	0	〔おむすびすつとんとん〕	$cis^2 - e^1 - e^1$
-4	,	+1	〔春風つるん〕	$f^1 - a - h$
-6	,	+1	〔元気モリモリ〕	$c^2 - c^1 - d^1$
-6	,	0	〔おはなしゆびさん〕	$b^1 - b - b$
			〔ペロペロアイス〕	$c^2 - c^1 - c^1$

1回・ねずみのちゅう公

- ・せんせいとおともだち
- ・おはなしゆびさん
- ・せんせいとおともだち

2回・おててをたたきましょ

- ・おむすびすつとんとん
- ・ペロペロアイス
- ・ぼうしをかぶろう
- ・みぎてとひだりて
- ・指の歌
- ・ゆびのさんぽ

3回・かしわもちギョツギョツ

4回・元気モリモリ

- ・春風つるん

5回・じまんくらべ

3歳未満児対象のあそびうたは、ことばのイントネーションとの関係もあり音程の隔りが広いことだけがうたいづらいことには継がらない。

聴唱法でうたを知る場合はよいが楽譜からうたを知る場合はともすると音程の隔りによって選曲されることもあるので注意したい。

おわりに

人間にとって一番身近な楽器は声である。しかしながら、小学校・中学校・高等学校でアカペラや独唱で歌う経験が少ないことがアンケート調査によって、明らかになった。保育者養成における声楽指導の役割は、心地よい響きの声・子どもが模倣したくなるような歌の表現力を育てることが使命である。この小論では特に、うた声の比重の大きい三歳未満児対象のあそびうた100曲を分析しその特徴を把む試みを行った。また、音楽の楽しさを子どもと共有するには、まず保育者となる学生自身がその楽しさや必要性について体験を通して知ることが重要で

多保田 治 江

ある。学生の過去の経験や成長過程の違いを踏まえた上で、保育者養成課程のカリキュラムの充実を図らねばならないと研究を通して痛感した。

註

- 註1. 文部省「幼稚園教育指導書 増補版」フレーベル館1989年
2. 日本保育協会編「保育所保育指針の解説」日本保育協会1990年
3. 多保田治江「保育者養成における子どものうたの取り扱いについて(1)」北陸学院短期大学紀要第25号1993年

参 考 文 献

- ・日本保育学会編「幼児の表現と保育」フレーベル館1990年
- ・藤田恵一著「子育てにわらべうたを」エイテル研究所1992年
- ・コダーイ芸術教育研究所著「新訂わらべうたであそぼうー乳児のあそび・うた・ごろあわせー」明治図書1986年
- ・音楽広場編「あそびうた大全集」クレヨンハウス、1994年